

問題用紙

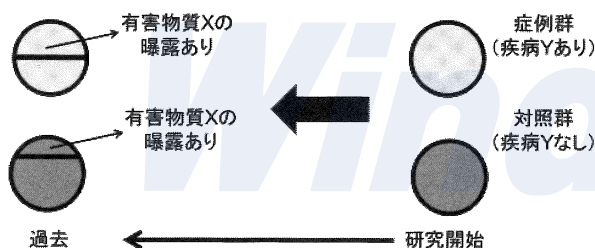
以下の図および文章を読み、以下の問題に答えなさい。

医学研究においては、人を対象として疾病の原因を探る疫学研究というものがある。疫学研究は、介入研究と観察研究の2つに大きく分けられる。この観察研究のうち主な「症例対照研究」と「コホート研究」について、図と文章で概要を示す。

【症例対照研究】

症例対照研究: Case-control study

- 研究開始時点で、疾病を有する症例群の一人ひとりについて、年齢や性別が一致するものの、疾病を有していない対照群を設定し、過去の有害物質の曝露歴について調べることで、曝露と疾患の因果関係を検討する。



【症例対照研究の主なメリット】

- 比較的時間や労力、費用をかけずに研究を実施することができる。
- 疾病発生に関する情報は正確である。
- 有害物質に曝露してから長期間かけて発症する疾病についても研究を行うことが可能である。

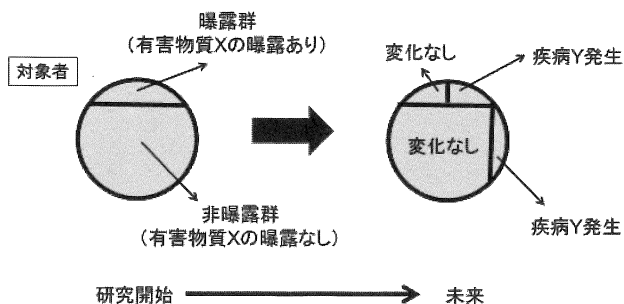
【症例対照研究の主なデメリット】

- 過去の曝露情報についての妥当性が低い。
- 稀な曝露の場合には研究を実施することが難しい。

【コホート研究】

コホート研究: Cohort study

- ある集団における有害物質の曝露状況を研究開始時点で調査し、集団全体を追跡することにより、曝露群と非曝露群における疾病発生の違いなどを検討する。



【コホート研究の主なメリット】

- 曝露情報が正確である。
- 曝露と疾病の時間的關係が比較的明確である。

【コホート研究の主なデメリット】

- 対象者の追跡率が低いと、全員追跡できた場合に比べ結果が大きく変わる可能性がある。
- 多大な時間、経費、労力が必要になることが多い。

問 1

以下の文章に該当する正しいものを、それぞれ 「a. 症例対照研究」「b. コホート研究」「c. 両方の研究」「d. どちらの研究でもない」の中から選び、解答欄に記載しなさい。

- ア. 現在から未来に向かって研究を実施する
- イ. 現時点での情報だけで研究が完結する
- ウ. 有害物質 X と疾病 Y の関連について検討できる
- エ. 過去の情報を利用した研究である
- オ. 対象者を無作為に介入群と非介入群に分ける
- カ. 医学研究のうち「観察研究」に分類される
- キ. 肺がん患者 100 人と健康な人 100 人を集めて、過去の喫煙状況を調べることにより、喫煙が肺がんの原因となっているかどうかを検討する
- ク. 妊娠中の喫煙状況を調査し、生まれてくる子どもが将来生活習慣病になるかどうかを検討する
- ケ. 疾病 Y の患者 10 人を集め、それぞれに共通する要因を検討する
- コ. 疾病 Y の罹患が不明な人が存在する可能性がある

問 2

1 万人に 1 人しか発症しないような稀な疾患 Y について、その原因として考えられる有害物質 X との関連を検討する場合を考える。この場合、「症例対照研究」「コホート研究」のいずれのほうが実行可能性は高いと考えるか。理由とともに 300 以上 400 字以内で記述しなさい。